

は じ め に

放送教育開発センターは、昭和53年10月に設置された大学共同利用機関である。

本センターは設置以来「大学放送教育実験番組・研究開発番組」の制作・放送や「放送利用の大学公開講座」の実施等を通して、放送を利用した大学教育の新分野の研究開発と大学教育の開放の促進等を行ってきた。放送利用の大学教育は、放送番組（テレビ及びラジオ）、印刷物（テキスト等）、面接・通信による学習指導等の多様な媒体と方法の総合的な活用によって学習者を時間や場所等の制約から開放し、大学教育における弾力的な学習とその向上を図ろうとするものである。

放送利用の大学公開講座（放送公開講座）は、本センターが大学及び地元の民間放送局との協力を得て行っている研究開発事業で、放送を利用して行う大学教育の内容・方法等の研究開発、大学教育の開放の促進及び大学における教育方法の改善に資することを目的としている。

本事業は、昭和53年度以来、本センターが各大学に依頼して実施しており、番組の制作及び放送は、財団法人民間放送教育協会に委託している。当初は、東北、金沢及び広島の3大学で実施されたが、逐次、実施大学が拡大され、平成元年度は北海道大学、東北大学、金沢大学、信州大学、名古屋大学、大阪大学、広島大学、香川大学（四国地区）、熊本大学、琉球大学、高岡短期大学の12大学で、テレビ12科目、ラジオ10科目の計22科目の講座を実施した。

これまで、放送公開講座においては種々の調査研究を実施してきたが、平成元年度より放送公開講座の調査研究課題も4テーマ化（①番組の制作に関する研究、②印刷教材に関する研究、③受講生サービスと受講生拡大に関する研究、④大学授業への活用に関する研究）され、各実施大学はこの中から独自の具体的テーマを設定し、調査研究を推進している。また、調査研究テーマを同じくする大学の共同研究についても北海道大学と新潟大学、熊本大学と琉球大学の間で推進されている。これらの調査研究報告については、「平成元年度放送利用の大学公開講座調査研究報告」に掲載予定であるので、ご参照いただきたい。さらに、今年度以降新形態として従来の45分番組から30分番組への移行を数大学が実施予定であり、この成果についても関心が寄せられている。

本報告書は、平成元年度の放送公開講座に関する実施報告書であり、Ⅰで講座全体の実施の概要を、Ⅱで各大学及び放送局からの実施報告を、Ⅲで受講生に対するアンケート調査等の結果及び傾向等を掲載している。またⅣは、第7回放送利用の大学公開講座シンポジウムの実施報告を、Ⅴは番組制作日程について掲載している。

また、本報告書は、各実施大学及び制作放送局からの報告等をもとにしてセンターが取りまとめたものであるが、各実施大学はこれとは別に独自の実施報告書を刊行しており、講座の実施体制、実施状況等より詳細な報告が掲載されているので、ご参照いただければ幸いである。

生涯学習社会と言われている今日では、新たためて放送教育の意義が問い直される段階にきており、各大学の放送公開講座の内容も各大学、地域の特色を生かすような工夫も見られている。そして、今年実施されたシンポジウムの第2セッションにも見られるように、放送教育とこれを取り巻く社会状況の中で、放送教育の今後の発展の可能性と役割の展望を追及していくこと

が必要であろう。このためにも、引き続きこれまでの実績を目に見える形で蓄積し、講座を実施していくうえで役立つ資料を提供できるよう、講座実施に付随した各種の調査研究を一層推進していきたい。

これまで、放送利用の大学公開講座に携われた関係者各位の御尽力に感謝するとともに、今後の放送公開講座の一層の発展のためにさらなる御協力をいただけるようお願いしてやまない。

平成2年8月

放送教育開発センター